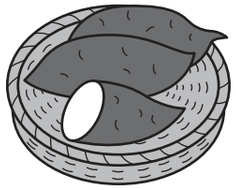
鹿市医郷壇



515　樋口　一風　選

兼題「唐芋（からいも・かいも）」

天

紫南支部　**加治屋犬好**

唐芋で明治維新ぬ成し遂げっ

（唱）米は食んどん薩摩ん馬力

（評）南九州はシラス台地が多く稲作には向きません。其処で原と称する高台で薩摩芋を作っていたので農家は、薩摩芋が主食のようなものだったのでしょう。録の高い侍は別として、郷士は芋を食べていたであろうと思われます。維新の活動の源は薩摩芋だったと作者は言っています。

また、維新のころは、薩摩の芋づるとも言われ、縁故を頼って役所にも薩摩の役人が多かったと聞いています。この句の唐芋は、両方に掛かっているような気がします。

地

清滝支部　**鮫島爺児医**

物不足き飢えをば凌だ唐芋飯

（唱）辛か戦後を何とか生きっ

（評）先の戦時中はもとより、戦後の混乱期は、食料不足で、国民は飢餓状態でした。幸いに鹿児島は薩摩芋が出来たので何とか飢えを凌いでいました。その薩摩芋も不足して、種芋を料理してもらいましたが、食える物ではありませんでした。

薩摩芋の蔓や葉っぱも料理して食べたような気がします。台風の多い鹿児島は、薩摩芋がなくては生きていけなかったのかもと思うと、前田利右エ門さんに足を向けては寝られません。

人

上町支部　**吉野なでしこ**

唐芋も今じゃ高級レアケーキ

（唱）洋風んお菓子し唐芋が化けっ

（評）東京の浅草に行くと、さつまいも菓子の専門店がありますし、川越市あたりにも美味しいさつまいもケーキを売っています。

最近は、カラフルな薩摩芋が生産されて、これが薩摩芋で出来たケーキかと思うような、美しいレアケーキが鹿児島県内でも売られています。

五客一席　伊敷支部　**谷山五郎猫**

間食いも夕飯も唐芋を食て育っ

（唱）米ん飯言あ盆とお正月

五客二席　紫南支部　**二軒茶屋電停**

焼酎ん味で唐芋ん品定め

（唱）飲んごろ達の舌先きゃ確か

五客三席　清滝支部　**鮫島爺児医**

旱魃の飢饉の時も強え唐芋

（唱）米は無かどん命っ支えっ

五客四席　紫南支部　**加治屋犬好**

焼っ芋ん甕が駄菓子屋へ子供を待つ

（唱）学校帰いの空っ腹い匂

五客五席　清滝支部　**鮫島爺児医**

唐芋が品種改良で菓子し化けっ

（唱）色やあ味も其其進化

秀　逸

清滝支部　**鮫島爺児医**

唐芋農業手入れも大概で良う育っ

唐芋が主食じゃったよ戦時中

唐芋は煮いばっかいで良かお八つ

上町支部　**吉野なでしこ**

肥えんごっ一個でやめた焼っ唐芋

焼っ唐芋焦げ目が美味ち選っ食っ

伊敷支部　**谷山五郎猫**

唐芋を焼っと高価こなっ大都会

紫南支部　**加治屋犬好**

泥だらけなって園児ん唐芋掘い

薩摩郷句鑑賞　154

薩摩狂句暦から

女模合笊ん甘藷が先き売れっ　**津曲とっこ**

「模合」は、いわゆる「頼母子講」とか「無尽講」などと言われる物のこと。輪番で、会員宅を会場にしながら、おしゃべり会を兼ねてやっているのであろう。

ちょうど、新藷（にかがいも）が笊で出されたのであるが、ご婦人ならずとも、新藷の味には手を出したい時期。茶菓子なんか見向きもしないで、たちまち笊を空っぽにしたのであろう。だいぶしのぎやすくなった農村の夜の、にぎやかなおしゃべりが聞こえてくるようである。

ふいやしで豆腐ん汁で舌を焼っ　**福留ごんぜ**

「ふいやし」と言うのは、食べものをむやみに欲しがることで、そういう人がいわゆる「いやしごろ」と言うことになろう。

その「ふいやしか人」が、出された豆腐汁に、すぐはしをつけたわけである。ちょっと冷ましてから、ゆっくりと食べればよいのに、いきなり豆腐を、口に入れたところ、舌が火傷しそうに熱かったのである。吐き出すわけにもいかず、慌てている姿がこっけいである。

十五夜様へ甘藷ん根ばやゆ手でさぐっ　**河野　太刀**

十五夜には、笊の中に、栗だとか里芋だとか、さつまいもなどを入れた一升枡と、芒や、毬づきの栗の枝などをさしたびんなどを入れ、縁側のあたり出して、月に供えたものである。

その、さつまいもを掘るために、畑にいって、根元をさぐっているようすを詠んだものである。

今日は十五夜だけれども、こうしたお供えをする家も、少なくなったのかも知れない。

薩摩郷句募集

◎11号
題　吟　「買物（けもん）」
締　切　令和4年10月5日(水)

◎12号
題　吟　「掃除（そっ）」
締　切　令和4年11月5日(土)

◇選　者　樋口　一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあてててくださいます。

◇応募先　〒八九二―〇八四六
鹿児島市加治屋町三番十号
鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係
TEL　〇九九―二二六―三七三七
FAX　〇九九―二二五―六〇九九
E-mail：ihou@city.kagoshima.med.or.jp